

おもしろいね！が、きっとみつかる

シニア世代の地域デビューを応援！  
～アッティーヴォ～

# attivo

みやシニア  
活動センター  
通信 vol.3 1  
(平成30年4月発行)

## 地域のボランティアで生きがいを！

今年は寒い冬であったにもかかわらず、4月に入り、20℃をはるかに超える気温が続いています。春がなく、いきなり夏かと思わせる陽気です。桜の開花もかなり早まり、宇都宮市内でも3月26日には開花宣言があり、満開になったのもそこからわずか3日後の29日でした。例年、桜の見ごろを迎える頃は雨の日が多くなりますが、今年は雨が降らなかったことで、長く桜の花が楽しめました。現在は、日光街道もだいぶ北上しているのではないのでしょうか。

今回の31号については、田川東橋下の四季を彩る見事な600㎡の花壇を維持管理されている栃木県シルバー大学校中央校同窓会宇都宮下町支部の皆さん。その中で中心に活動をされている大曾在住の郷間和夫さん。そして、竹下町の飛山城史跡公園で、主に土日祝日に飛山城跡を案内している「国指定史跡飛山城跡ボランティアガイド」の皆さんを紹介します。それぞれの地域で、生き生きと活躍している方々です。



### ① 田川東橋下の花壇はすばらしい

栃木県シルバー大学校中央校同窓会  
宇都宮下町支部田川花愛護会：郷間和夫さん

### ② 国指定史跡 飛山城への熱い思いがボランティアガイドへの道

飛山城跡ボランティアガイドの皆さん

「attivo (アッティーヴォ)」とは、イタリア語で「活動的な、行動的な」という意味です。

## ① 田川東橋下の花壇は素晴らしい

取材:肥後特派員

宇都宮市内をほぼ南北に流れる田川。その田川の県庁前通りに架かる東橋。その東橋の下の遊歩道沿いに、約600㎡の花壇があります。栃木県シルバー大学校中央校同窓会宇都宮下町支部田川花愛護会が管理している花壇です。これからの季節、チューリップなど色とりどりの花を咲かせ、遊歩道をジョギングやウォーキングで通る人、また、東橋を渡る市民の



【郷間和夫さん】

目を楽しませています。この花壇を中心になって管理しているのが、代表の大曾在住の郷間和夫さんです。郷間さんは、平成26年、荒地であったこの地を県より借り受けました。この場所は、皆さんご存知と思いますが、ジョギング等の出発点や解散場所として利用され、橋の上から花壇を一望できる、市内でも有数の場所でもありました。その後、同じ志を持つ宇都宮下町支部の皆さんや地元の皆さんと一緒に、ここを地域に「うるおい」を与える場として花を植え続けてきました。

現在、77歳の郷間さん。体力がきつくなってきたと言いつつ、率先して毎週土曜日と全体の作業日である第4日曜日に、花壇の手入れや肥料やり、そして、季節ごとに、花苗の植え替え等を行っています。しかし、この広さを維持するためには、経費がかかります。最近では、行政の支援事業の活用や安価な肥料の購入、また、近隣の方からの花苗の提供をいただく等、いろいろ苦心されていますが、皆さんからの「とてもきれいだ。」「心が落ち着く。なごんでくる。」と褒められて、苦勞が報われるということです。その結果が、春はパンジー、チューリップ、キンギョソウ。夏はひまわり、百日草、マリーゴールド。秋にはコスモス、サルビア、菊などが咲き誇る見事な花壇となります。この attivo31号が皆様のお手元に届く頃には、色とりどりのチューリップが咲き乱れていることでしょう。これは本当に見事です。

今年には桜の開花が早く、また、開花から満開まで3日程度しかかからず、例年になくあけられない桜の開花状況でしたが田川の遊歩道にはたくさんの桜の木があり、市民の目を楽しませてくれました。今年も桜とチューリップの開花がほぼ同時となり、桜の白とチューリップの赤が、見事に重なり絶景でした。

このように忙しく活動されている郷間さんは、もう一つのボランティア活動をされています。豊郷地区や大曾周辺の介護施設の訪問し、得意なギター演奏と歌で、施設の皆さんを楽しませてあげています。また、総勢30人くらいのチームを作り、ギターだけでなくアフリカンダンス、ハワイアンダンス、民謡、マジック、語り部などの演目を織り交ぜながら、ボランティア活動をされています。5か所の施設をほぼ毎月、年間60回以上のボランティア訪問には頭が下がります。



【花壇の手入れの様子】

「園芸」と「演芸」。<sup>はちめんろっぴ</sup>八面六臂の活躍はアラセブン（70代）とは思えません。健康で長く続けられる事を祈ります。

## ② 国指定史跡 飛山城への熱い思いがボランティアガイドの道へ

取材:石井特派員

宇都宮市の東方、竹下町の鬼怒川沿いに「飛山城跡」があります。

今回は、NPO法人「飛山城跡愛護会」の事業の1つとして、平成17年にスタートした「国指定史跡飛山城跡ボランティアガイド」の6名の方に、興味深いお話をお聞きしました。

飛山城は、中世下野の有力武士団宇都宮氏を支えた重臣で、南北朝時代、あの楠木正成が



【ボランティアガイドの皆さん】

恐れて戦を避けたという「紀清両党※」の雄である「芳賀氏」の居城で、中世の城跡をほぼ完全な形で残し、文献上にその名を残すなどから、昭和52年国指定史跡として調査発掘、整備されました。旧石器時代の落とし穴、古代の烽火施設を示す「烽火」墨書土器、鎌倉時代後半から安土桃山時代までの城の土塁と6重の堀、曲輪、木橋、土橋（入口の木橋の木材には「ちような削り」の痕が見える）、物見櫓跡、虎口や枡形、掘立柱建物などを見ることができるそうです。近年、テレビで取り上げられたり、著名な城好きの落語

家が訪れたり、熱い「歴女」「城女」が見学に訪れたりと来場者が増えているそうです。

このように城跡を残せたのには、昭和40年代城跡周辺の開発・破壊を憂える地元住民が「竹下町飛山保存会（竹下町文化財愛護会の前身）」、昭和52年国指定史跡、平成4～10年発掘調査、平成11年「飛山青空大学」開校、平成15年NPO法人「飛山城跡愛護会」発足、平成17年「飛山城史跡公園」並びに「とびやま歴史体験館」がスタートするなど、地元の熱い思いがあったのです。

ボランティアガイド23名が、土日祝祭日に一般の来場者や、要請を受けた小中高生、宇都宮大学の公開講座受講生等を案内解説、時には近隣の同慶寺などの案内を行っているそうです。

和気あいあいの雰囲気の中で、ボランティアへの思いの話が広がっていきました。

現在、89歳の大野さんは、あまりに知らな過ぎる地元のことを学ぼうと、平成11年「飛山青空大学」受講以来ガイドを続け、後輩から「生き字引」として、「困ったときには大野さん」と、相談役として頼られています。「耳だけでなく目で話を聞こう。」と諭しながらのポイントを外さないガイドぶりは仲間のお手本。これからも健康でガイドを続けたいと飛山への思いは熱い。

第二の人生を充実させたいと、12年前の現役時代に養成講座を受講し、ガイドを始めた渡辺さん。退職して本格的にボランティアに従事。「落とし穴」「枡形の枡」が分からない今の子どもたちに、自作のイラストや写真、クイズを多用、飽きた人には植物や動物の話と工夫を凝らす。案内の際には、土塁やスズメバチなど安全に気を付けながらガイドし、反応が返ってくるのが楽しいとのこと。



【飛山城史跡公園】

「石垣」に魅せられ、有名な近世の城廻りをしている高橋さん。

しかし、地味だが奥の深い中世の城のよさ（国人たちがその地を生かして領地、人々を守るために命がけで築いた砦、城）への思いに至り、当時の人々の息づかいまで感じる、とすっかり飛山城に魅了され、ガイドにも力が入るといふ。また、特技の写真撮影を生かし、解説資料としてガイド仲間に提供し、皆さんから感謝されている。

地元団地に住んで40年経つが、地域のことを知らなすぎる、もっと地域のことを知りたいと、栃木県シルバー大学校や養成講座で学び、合格してガイドになった高田さんは、時々、緊張して早口にならないかと、気になるという。

幼少時から、祖母に飛山の話聞いていた齋藤さん。地元に戻り、宇都宮大学の講座を受



【ガイド部会の様子】

講。平成22年にガイドを始めた当初は、何度も先輩の大野さんに付いて解説術を学び、解説ポイントごとの大野さんの写真をファイルに収め、今も参考にしている。そのファイルには「落とし穴」や季節の動植物、見所の拡大写真や地図、富士山の写真などが盛りだくさんだ。これらを使って工夫を凝らしながら解説しているという。

企業戦士だった吉澤さんは、70代で体調を崩して一線を退いたが、一念発起してボランティア講座を受講。「ガイドができる」自信を得て、平

成23年から始め、現在、リーダーを務める。何度も先輩のガイドに付いて解説術を学び、初ガイドの時には、家族や友人を相手に夢中で解説したことがいい思い出になっている、と笑顔で話す。

案内には10カ所のポイントを廻るが、当時の城の規模の大きさ、構造、立地を実感し、歴史上の人物の登場等、臨場感たっぷりの解説に感激し、詩吟を吟じたり、ふるさとの民謡を思わず口にしたり、「よく分かった。」「ガイドを自分もやってみたい。」等の来場者の反応の姿に、改めて飛山城跡の魅力を確認することもしばしばだと、皆さんの話が盛り上がりま

す。月1度、困り事対策のためのアイデアや、自作資料、情報を交換するなど、レベルアップのための勉強を欠かさない。年齢も興味も幅広い来場者に、分かりやすく、飽きられないように、具体例を挙げたり、写真やイラストの活用、富士山の眺望や植物や動物まで話題を広げて、臨機応変に解説を工夫するのが楽しいそうです。「飛山城跡が大好き。」「知れば知るほど楽しい。」「飛山城の魅力がますます広がり、深まっていく。」と、話は尽きませんでした。

飛山城跡に興味や関心のある方やガイド志望の方は、どうぞ「とびやま歴史体験館」へご連絡ください。Tel 028-667-9400

※「<sup>きせいりょうとう</sup>紀清両党」とは、下野国宇都宮大明神（宇都宮二荒山神社）の座主である宇都宮氏の家中の精鋭として知られた武士団。東国武士の武勇を代表する武士団として有名である。「紀」は益子氏の本姓である紀氏から、「清」は芳賀氏の本姓である清原氏からであり、それらの一族で構成されている。（ウィキペディアより）

○ 発行／編集 **みやシニア活動センター**（宇都宮市 保健福祉部 高齢福祉課）

住所：宇都宮市旭1丁目1-5 宇都宮市役所2階

電話：028-632-2368 ファクス：028-639-8575

ホームページ：<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp>